

令和8年度 第4回 国立大学法人三重大学学長選考・監察会議 議事概要

日 時 令和8年8月3日(月) 13:30～14:30
出席者 伊藤(歳)、大友、河上、末松、竹林、丸山、横山 各委員
(経営協議会選出)
金子、伊藤(敏)、鈴木、池浦、木村、諏訪部 各委員
(教育研究評議会選出)
欠席者 野崎 委員
陪 席 中津、小川 各監事
塚田企画総務部長、水谷総務課長、企画総務部総務チーム

<審議事項>

1. 学長予定者の選考について

議長より、次期学長予定者の選考については、本会議が自らの権限と責任において主体的に決定すること、及び事前の意向投票の結果は参考にとどめる旨が改めて確認され、続いて議論の進め方等について説明があった。

以上をふまえて意見交換が行われ、審議の結果、佐久間候補を次期学長予定者として決定した。

<委員からの意見>

- ・総合大学として多様な構成員の意見を反映した判断が必要と考える。意向投票において、各候補者への支持が分かれたことや特定部局からのみ学長が選出されている現状を踏まえ、慎重な選考が必要である。
- ・病院運営等における確かなマネジメント実績や、地に足のついた現実的で着実な議論ができている点が評価できる。これまでの大学運営の路線を継続し、急激な変化による組織内の摩擦を抑えつつ、安定した組織運営を期待する。
- ・今後の大学運営にあたっては、特定の学部や病院の枠にとらわれず、全学的な広い視野に立ち他学部や事務局を含む大学全体の総意を反映していただきたい。また、教職員間で評価が分かれている部分も見受けられるため、今後は学内の多様な声にも丁寧に耳を傾け、より良い信頼関係を築くリーダーシップを期待する。
- ・選考の過程で示された、安定した組織運営力と、変革力や客観的視点は、いずれも三重大学の将来に不可欠な優れた能力である。次期体制においては、これらの強みを融合させ、お互いの良さを活かし、大学全体の魅力向上と発展に向けて、組織一丸となって取り組んでいただくことを期待する。
- ・文科省からの組織改革要求を踏まえ、次期学長の選出は本学の存続に関わる極めて重要な選考となる。現体制の路線継承による安定性と継続性を重視する考えと、行政への提言を通じて地域大学としての明確な方向性を打ち出す考えの双方が存在し、今後の大学運営のあり方が問われている。

2. 学長予定者の選考に係る公示（三）について

事務局より、国立大学法人法および学長選考規程に基づく「選考結果」「選考理由」「選考過程」を明記した公示（三）案について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、委員より今回の学長選考において認識された課題を整理し、次回の学長選考に向けた引継ぎ事項とする旨の意見があった。

3. その他

なし

<報告事項>

1. 今後のスケジュールについて

事務局より、今後の本会議のスケジュール（現学長任期最終年度の業務執行状況の確認、および今回の選考の振り返り・課題整理）について、次回は10月26日（月）開催予定の経営協議会終了後に実施する予定である旨の報告があった。

2. その他

なし

以上